

# ～四万十川自然再生事業計画を見直ししました～ツルの越冬環境づくりをさらに進めます！

人と自然とが共生できていた昭和40年代の四万十川の原風景を再生することを目指し、国土交通省中村河川国道事務所が実施している「四万十川自然再生事業」。このうち、「ツルの里づくり事業」はツルが安心して越冬できる環境づくりを目指し、中筋川流域でツルのねぐら整備などを行ってきました。その結果、平成29年度から令和元年度にかけて、四万十市において記録が残る中では初めて3年連続でツルが越冬するなど、毎年多くのツルの飛来が見られるようになっていきます。しかしながら、飛来数と比べて越冬数はまだまだ少なく、ツルが安定的に越冬できる環境には至っていません。そこでこの度、四万十川自然再生事業計画の見直しを行いました。今後は見直した事業計画を元に地域の皆さまのご協力をいただきながら、ねぐらの再整備やツルの餌生物となる魚類の繁殖拠点整備などを進めていきます。



令和元年度に越冬したナベヅル



上:ねぐらの再整備イメージ、下:ツルの餌生物となる魚類の繁殖拠点イメージ



たまっている土砂を取り除き、池のような空間を作ります。浅くて温かい池の中は、魚の子もたちがすみやすい場所になります。

池の中にはヤナギなどの樹木が生えにくいいため川の流れも良くなります。

## ～清流四万十川の未来へ繋ぐ流域治水対策～「四万十川流域治水プロジェクト」を策定・公表しました！

近年激甚化している水災害等に備えるため、集水域から氾濫域にわたる流域全体のあらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を推進しています。令和2年8月19日に「四万十川流域治水協議会」を発足し、関係機関との協議を重ね、令和3年3月30日に「四万十川流域治水プロジェクト(下図)」を公表しました。今後、関係機関と連携の上、本プロジェクトの取組を進めていきます。※本プロジェクトのうち、利水ダム等4ダムにおける事前放流等の実施、体制構築については令和2年5月28日に「渡川水系治水協定」を締結し、治水機能の強化に取り組んでいます。※「流域治水」の取組について中村河川国道事務所HPもぜひご覧ください。▶ <http://www.skr.mlit.go.jp/nakamura/river14.html>



# 四万十川ニュースレター vol.9

四万十川に関する様々な情報をお伝えします

国土交通省四国地方整備局と高知県では、平成27年2月に共同で策定した「渡川水系河川整備計画」に基づき、関係住民の皆様や学識経験者の方々、関係市町村等とのよりいっそうの連携・協働を図りながら、鋭意、河川整備を推進しています。また、河川整備の具体的な実施内容や進捗状況を、このニュースレターを通じて皆様にお知らせしています。

## It's started! 令和2年6月、横瀬川ダムの管理を開始しました！

横瀬川ダムは、令和2年3月にダム本体が完成し、これに先立ちダムの安全性を確認するための試験湛水を令和元年10月より実施してきました。

令和2年4月21日にダムで貯めることのできる最高の高さである洪水時最高水位まで水を貯め、その後貯めた水を通常管理する高さまで低下させ、ダムとその周辺の状態が安全であることを確認しました。

これにより、横瀬川ダムは令和2年6月16日から、本格的なダムの運用・管理を開始しました。今後は、既存中筋川ダム、横瀬川ダムの統合管理により洪水時の流量の低減や水道用水の安定的な供給、河川環境の維持に努めて参ります。



ダムの下流にある滝や祠を守るために、ダムから流下する水の勢いを弱める減勢施設を堤体側面に設置した側水路減勢方式を世界で初めて採用しています。側水路で水の勢いが減勢できている状況も確認できました。



横瀬川ダム建設事業の完了、管理開始にあわせ、令和2年11月22日、赤羽国土交通大臣をはじめ関係者約100名の皆様に出席いただき、横瀬川ダム竣工式を開催しました。この中で令和2年8月より公募していたダム湖名も公表しました。応募総数334通の中から「もみじ湖」に決定しました。今後、中筋川ダムの「蛭湖」、坂本ダムの「どんぐり湖」、中筋川ダム下流で見られる桜のように地域に親しまれ、延いては四季を通じて皆様に愛される幡多地域となるようダムを活用した地域振興にも取り組んでいきたいと思ひます。

日本で初めて堤体壁面に設置されたクライミング施設を体験いただけます！事前申し込み制になっていますので、ご希望の際は宿毛市観光協会までお問い合わせください。

## 渡川水系河川整備計画とは

渡川水系河川整備基本方針(平成21年2月9日策定)に基づき、四万十川、後川、中筋川の総合的な管理ができるよう河川整備の目標および実施に関する事項を定めたものです。その対象期間は、概ね30年間としています。

## 渡川水系河川整備計画の基本理念

安全で安心な生活を営むことができる川づくり  
恵まれた自然を育む清流としての川づくり  
次世代に誇れる豊かな川づくり



# 国・県・市の3者で連携!

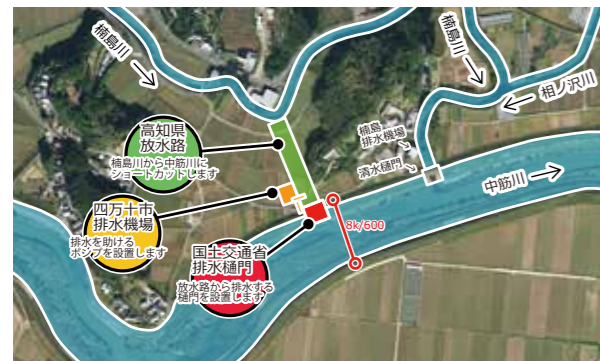


## 相ノ沢川総合内水対策事業

具同・楠島地区では、平成26年6月梅雨前線豪雨による甚大な浸水被害を受けて、平成28年に国土交通省・高知県・四万十市の3者でハード・ソフト両面からなる「相ノ沢川総合内水対策計画」を策定しました。

国土交通省では排水樋門の整備に着手し、間もなく樋門本体工事に着手します。県の放水路は中筋川と楠島川の接続部を残して概成し、市の排水機場も鋭意施工を進めています。

今後も3者が連携して早期の完成を目指します。



### ハード対策

<b>【国土交通省】</b> ・楠島川排水樋門の新設 ・排水ポンプ車で内水排除 ・横瀬川ダムの整備	<b>【高知県】</b> ・相ノ沢川、楠島川の改修 ・楠島川の放水路新設など	<b>【四万十市】</b> ・雨水貯留槽の有効活用 ・排水機場の新設など
--	--	--

### ソフト対策

<b>【国土交通省】</b> ・河川水位、内水センサーの情報提供体制の整備	<b>【高知県】</b> ・土地利用に関するルールづくり ・住民への防災情報の提供 ・防災訓練の実施など	<b>【四万十市】</b> ・土地に関するルールづくり ・住民への防災情報の提供 ・防災訓練の実施など
--	---	--

## 入田地区内水対策計画を策定



### ハード対策

<b>【国土交通省】</b> ・入田樋門の改築	<b>【高知県】</b> ・導水路の整備
----------------------------	-------------------------

### ソフト対策

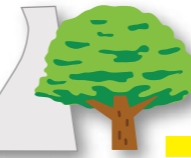
【四万十市】

- ・農地法に基づく土地利用の規制
- ・保水区域である流域農地の保全
- ・防災情報の提供と活動



入田地区では内水による浸水が度々発生しており、洪水時には周辺田畑、道路の冠水被害や道路冠水による世帯の孤立が発生していました。そこで、今回『入田地区内水対策計画』を策定し、ハード・ソフト対策が一体となった内水対策を進め、おおむね10年に1度発生する降雨による洪水を安全に流下させるために、国土交通省・高知県・四万十市の3者が連携してソフト対策を実施するとともに既設の入田樋管の上流側に新たに樋門を新設します。

国土交通省では、令和3年度から入田排水樋門の新設工事に着手します。



## 暮らしと景色をまもる 初崎堤防 進捗日誌

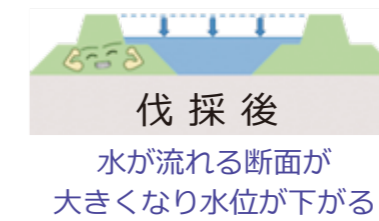
堤防のなかった初崎地区で築堤工事を行っています。地域に親しみのあるタブの木を残すなど、景観に配慮した特殊堤となっています。

平成29年度から本格着手した堤防工事では、令和元年度に樋門のゲート設備が完成、令和2年度には築堤の一部が完成しました。

これからも地域を洪水や高潮、地震発生時に想定される津波から守るため、安全第一に工事を進めてまいります!



## 樹木伐採・河道掘削を行いました



河道に樹木が茂ったり土砂が堆積していると、洪水時に流下の妨げになるため、定期的な樹木伐採や河道掘削が必要です。

令和2年度は、四万十川(山路、角崎・実崎ほか)、中筋川(中山・楠島ほか)、後川(右山・角崎)で工事を行いました。

入田地区(四万十川右岸12k400 桜づつみ付近)では河川敷に繁茂した樹木を伐採したことにより、流下能力の向上はもちろん、堤防から四万十川を眺めることができるようになりました。散歩等の際に見てみてください。

令和3年度は四万十川(山路)、後川(秋田)で河道掘削を進める予定です。

洪水は流れやすくなりますが、台風などの際は、自治体から出される避難情報や気象情報、河川の情報などを自ら確認し、命を守る行動をお願いいたします。